まさかの「人力」AIだった AIスタートアップ、破産申請へ

22161241山口翔矢

概要

- 「ピザを注文するのと同じくらい簡単にソフトウェアを開発する」と謳っていた、ロンドン拠点のAIスタートアップ企業BUILDER.AI。
- かつて15億ドルもの評価額を受け、さらにはMICROSOFTやカタール政府系ファンドの支援まで受けていたこの企業が、破産を申請しました。
- 理由のひとつは、AIに任せていると思われていた作業が、実は約700人ものインド人エンジニアによる人力作業だったことが発覚したから。

- 2019年に、The Wall Street JournalはBuilder.aiが提供したソースコードの大部分がエンジニアによる手書きであることを暴露しています。さらに2024年後半の売上見通しが25%も下方修正されるなど、資金の流れについても不透明。

- 2025年2月に新CEOとして就任したマンプリート・ラティア氏が財務記録の虚偽記載を暴いたのが決め手となり、破産申請と相成りました。

コメント

- クラウド型の名刺管理サービスで、今では社会になくてはならないSANSANも、テクノロジーが追いついていない立ち上げ時代は、ユーザーがスマホでスキャンした名刺を、向こう側では人間が手打ちしていた、という嘘のような笑い話もある。今や、フォーマットもバラバラな個性的なアナログ名刺情報をAIがデジタル化して、データとしてバリバリ活用できるようにしている。このAIスタートアップも、似たようなことをしようとしていたのだろうか？

- プロダクト開発の初期に、プロトタイプを高速に作る手法「オズの魔法使い」で、裏は人力でカバーすることはある。ただ、「約700人ものインド人エンジニアによる人力作業」まで行くと、さすがにプロダクトというよりBPOサービスになりそう。

感想

- 人力で運営できていたことに驚いたが、AIが今後進化していくとこういった小細工もできなくなると思うため一時的なものだと思う。